

館の運営方針	歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。
ジャンルの目標	手遊びや音楽、体操を通して健やかな体と豊かな感受性、好奇心を育むと共に、同年齢の子と保護者の触れ合いや交流する場を提供する場として本講座を開設。身体で手本を示せるように、学んだことを日々の生活で生かしながら、子どもの創造性を大切に、友達づくりや他の親子との交流を図ることを目標としている。

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	3歳児親子あそびうた教室	遊び、音楽(リトミック活動)、体操を通して健やかな体と豊かな感受性、好奇心を育む。また同年齢の子と保護者の触れ合い等、交流する場を提供する。

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般			
企画	企画段階での課題と解決策	A	A:各個別事業の想定課題は正しかった。 B:各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C:個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i:途中で変更した。 ii:そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B	A:各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B:各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C:各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i:別の方向に進めた。 ii:そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	本事業は、26年度に2歳児親子あそびを3歳児親子あそびうた教室として再スタートしたもので、音楽を使ったリトミックを中心とすることにより、幼児の感受性や好奇心、参加者の触れ合いに繋がる講座運営を進めてきた。また、アンケートや反省結果を踏まえ、絵本の読み聞かせを入れるなど多くの方が参加しやすい環境づくりに努めてきたが、子育て支援の一環として大切な事業でもあるため、カリキュラム等の充実を図っていく必要がある。	
改善	次年度への課題と展望策	A	A:事業拡大。 B:現状規模での継続。 C:事業縮小。 D:目的達成により終了。 E:統合・改善・その他 ( )

総合評価		成果
B	事業規模 A:適切で成果が得られている。 B:課題あり、成果が得られている。 C:課題あり、成果があまりない。 D:成果が得られていない。 E:現段階では判断できない。	音楽を使ったリトミックを中心としたカリキュラム構成とすることにより、幼児の感受性や好奇心、参加者の触れ合いに繋がる講座運営に努めたほか、アンケートや反省結果を踏まえ、絵本の読み聞かせを入れる等講座回数を増やすほか同一講座を2回実施し、多くの方が参加しやすい環境を整えた。その結果、それぞれ15組と21組の参加を得ることが出来ただけでなく、前回よりもバリエーションのある内容の事業提供が出来た。
	課題	本講座では、音楽を使ったリトミックと読み聞かせにより全5回のコースを2回開設しているが、他館の同様な講座では、多目的な事業を盛り込んだ長期間の講座開設となっている。こうした状況と参加者アンケート等を踏まえ、学習目標を達成するためのより良い事業の企画・立案に継続して取り組んでいく必要がある。

ジャンル	家庭教育
事例発表の事業	3歳児親子あそびうた教室

★公民館運営審議委員意見

委員①	
総合評価	A ★ジャンルについて 少子化・核家族化の中で、一人で育児に取り組んでいる、若い母親世代にとって不安になりがちな育児を支え、子どもと親のつながりを育てる分野であり、大変有意義なものと感じました。 ★事例発表の事業について 幼い子どもたちと母親たちが楽しく遊びながら、母親とおしの交流も図れる企画と思いました。保育園やご近所のつながりとはまた別のつながりができ、子育てに対する悩み等を共有できる機会づくりになっていると思います。

委員②	
総合評価	A ★ジャンルについて 家庭教育というジャンルで就学前の教育内容として3歳児という重要な時期の内容が大変よい。 ★事例発表の事業について 何よりも体を動かす内容がよく、プログラムも多様で課題に対する改善がなされている。

委員③	
総合評価	A ★ジャンルについて 早期の家庭教育学級、とても大切かと思えます。核家族化等が進む中、家庭教育に悩む若い母親も増加してると思えます。これからも継続・発展していただければと思います。多くの家庭の参加があるとよいと思います。 ★事例発表の事業について 歌を歌ったり、読み聞かせをしたりと、とてもよいと思えます。体を動かす運動やリトミックは人気がありましたが、心も動くような講座も大切だと思えます。

総合評価	委員④	<p>★ジャンルについて 幼児と保護者とのふれあい、保護者どうしのふれあい、意見交換は非常に大切だと思います。これからも活動の継続に期待します。</p> <p>★事例発表の事業について 発表はとても良く、頑張ってくださってる事がわかりました。</p>
	A	

総合評価	委員⑤	<p>★ジャンルについて 親子で共に学び体験し、参加者との交流ができる場として良い。</p> <p>★事例発表の事業について 幼稚園・保育園に入園するまでの親子は孤立しがち、同じ年齢の子どもということで保護者同士も共通の会話が生まれる。運動でのスキンシップも心と身体に良い影響を与えるので、今後も是非継続してほしい。また、土・日コースがあれば母親が働いている親子も参加できるのでは。</p>
	A	

総合評価	委員⑥	<p>★ジャンルについて 学校教育、社会教育、家庭教育それぞれの教育力が低下し続けていると言われます。特に家庭教育は、核家族化、共稼ぎなど社会構造の変化により、「家庭教育」の「実践の場」が失われつつあります。それが今という時代の「地域の構造」の一面でもあります。教育の基礎でもある家庭教育の向上に向けて、その支援をしていくことが強く求められています。家庭教育力を育むことも社会教育の大きな課題となっています。公民館が社会教育として「家庭教育力の向上」を担っていることの重要性を、地域づくり全体の視点から評価していくことが大切ではないでしょうか。中央公民館では「3歳時親子あそびうた教室」として事業が実施されていますが、さらに地区の中核施設として多様な家庭教育事業の推進を期待します。</p> <p>公民館が多くの役割を様々な事業の実践を通して担わなければならない時代と違い、行政には様々な専門分野を担当する部署が設置されています。集まりやすい「公民館」を会場として、他の部署と連携しながら事業が展開されるべきであると思います。広報佐倉3月1日号には、佐倉市全体の子育て支援事業の紹介として、子育て支援特集号が折り込まれていました。しかし残念ながら、ここに各公民館の取り組みは紹介されていませんでした。佐倉市が発行している「佐倉市子育て支援ガイドブック」には、簡単ではありますが各公民館の「子育て事業」が掲載されています。広報特集号の趣旨の違いやスペースの関係もあったのかも知れませんが、公民館活動が欠落していたことは極めて残念です。公民館の意思ではないとは思いますが、市の「子育て支援策」についての見識が問われかねないと思います。子育て支援担当部署と各公民館との連携をより一層図った事業の充実を期待します。</p> <p>★事例発表の事業について 手遊び、リトミック、元気体操、ピアノに触れるなど遊び心の育成に向けて、親も子も興味を持って取り組めるプログラムが用意されています。報告からは、子ども達が楽しく講座に参加している様子が窺えました。また、少子化時代＝地域で子育て家庭が孤立している時代とは、親が多くの悩みを抱えている「事態」でもあり、講師と保護者の意見交換の場を設けたことは、担当者が家庭教育についての洞察がしっかりととれていることの表れでもあると感じられました。また、課題として把握されているように、大きな目的の一つが保護者同士の同感・共感・共有にあると思います。検討されているように、保護者の交流が図られるようなおやつ会の開催などもぜひ実現して欲しいと感じています。</p> <p>そして何よりも、子育て支援課を始めとして子育て関係担当部門との連携を強めて取り組んで頂きたいと思います。より効率的に講座が進められると思いますし、いろいろな気付きもあると思います。絵本に飽きてしまう子がいれば、図書館にはいろいろなノウハウや読み聞かせ活動の団体もあります。お話しキャラバンとの連携もあっていいのではないかと思います。公民館職員が全てを担う必要はないのですから、課題を把握したら市全体で取り組んで欲しいと思います。</p> <p>工夫した取り組みが行われ、また今後の課題も的確にとらえられていることから、より一層の事業の充実を期待します。</p>
	A	

総合評価	委員⑦	<p>★ジャンルについて 同一コースを2回実施、15組・21組の参加があったこと、対象児童が多いことあると思いますが、保護者が親子で一緒に経験したいという意欲が見られます。リトミックやグランドピアノに触れる等の活動は他では経験できないことで、満足できたと思います。</p> <p>絵本読み聞かせは、DVD・テレビ・スマホといった一方的に流れる物に囲まれている子どもたちが、身近な人に自分に合わせて読んでもらえる経験を保護者にも知ってもらい、日々の生活にも取り入れてもらいたいものです。</p> <p>★事例発表の事業について 幼稚園や保育園入園前の親子にとって、多種の活動が用意された事業で楽しく参加できたと感じました。また、少なからず抱えているであろう子育ての悩み・不安などを、指導者や他の保護者と交流することで解決していることあると思いますので、ゆとりできる時間を用意することも大切ではないでしょうか。</p> <p>普段家庭では出来ない遊びや活動ができる事業で、参加者増にも繋がると思われるので、これからの事業内容の工夫に保護者の希望も取り入れて頂きたいと思います。</p>
	A	

総合評価	委員⑧	<p>★ジャンルについて 遊び、音楽、体操を通じて健やかな体と豊かな感受性、好奇心を育み保護者との触れ合い等、交流の場を提供する事業であり、総合的に良い評価を得た結果となっている。より一層充実した事業展開を図るには今後多方面からの検討を望みます。</p> <p>★事例発表の事業について 少子化の昨今、3歳児に関わりのある事業は貴重である。子どもの健やかな感受性と好奇心を育み保護者等との交流の場が図られ、参加者は15組と21組に増え、アンケートの結果も良く、今後も一層の期待がされる事業と考えられます。</p>
	A	

総合評価	委員⑨	<p>★ジャンルについて 保育園や幼稚園などに通っていない幼児とその保護者に交流や学びの場を提供できる場として、公民館の担う役割は大きい。地域で子育てをしていくという視点を大切に継続していただくと嬉しく思う。</p> <p>★事例発表の事業について 事業内容は様々な工夫されていて、アンケートや意見交換の場が生かされていることが伺える。楽しい場であると同時に、保護者の抱えている育児の悩みなどを共有できる場としても考えてくださっている様なので期待したい。</p>
	A	

委員⑩		<p>★ジャンルについて 幼児教育の一環として、「3歳児親子あそび教室」は、幼児と保護者のためを考えたい良い事業と思います。</p> <p>★事例発表の事業について 事業の開設趣旨にあるように、手遊び・音楽・体操などを通しての幼児教育がしっかり行われており、幼児や保護者同志の触れ合いの中で、育まれて行く幼児の姿が垣間見れます。アンケート内容を参考に継続して下さい。</p>
総合評価	A	

委員⑪		<p>★ジャンルについて 3歳児親子あそびうた教室は、保護者と幼児のふれあいや保護者と保護者どうしの交流の場を提供する事業として大変有意義な事業であると思います。 企画は、前期は木曜日、後期は火曜日で午前の実施となっていますが、他の曜日とか、午後の日程、予備日の設定なども考慮して欲しいと思います。</p> <p>★事例発表の事業について 公民館の家庭教育事業の3歳児親子あそびうた教室は、参加数も多く、内容も充実していると思慮されます。出来ましたら、各講座の実施時間を90分位にして貰えるとよいのではと思います。 また、絵本の読み聞かせの他に紙芝居や人形劇等も提供して欲しいと考えます。</p>
総合評価	A	

委員⑫		<p>★ジャンルについて 事業のねらい、活動内容ともによいと思う。 対象となる子どもたちが少ないのかもしれないが、子育て支援は大切な分野であり、一事業というのは寂しい気がした。 (館の特殊性、地域性のことがあるのかもしれないが)体を動かす分野、情操を育む分野で新たな事業の検討を兼ねないかと期待する。</p> <p>★事例発表の事業について 子ども達の活動では「明るく元気に楽しく、が大事だが、その機会を提供し、子ども達や親同士、子どもと親の交流が図られていてよい。これまでの積み重ねが運営に生かされている。これがリーダー・参加者の増加につながっていると思う。 この事業についてはあまり欲張らず、継続・改善を進めてほしい。 カレッジ生をボランティアに迎えることなど検討されては…。</p>
総合評価	A	

委員⑬		<p>★ジャンルについて 家庭教育と言うよりも親子が他の家族と共に学ぶのは一つの社会教育になると思われれます。 新しいコミュニケーション作りになるので、大いに継続して戴きたい。</p> <p>★事例発表の事業について 不勉強でリズムの言葉を初めて知った。リズムに合わせて体を動かすのは遊びざかりの子どもにとって音感教育にもなる。 時間は10:00～11:00とあるが、もう少し長くて間に休憩などを入れて10:00～11:15位にした方が親密になれるのではと思います。</p>
総合評価	A	

委員⑭		<p>★ジャンルについて 「家庭教育」のジャンルは公民館活動の重要な分野となっており、「お遊び」を通して、親子の触れ合いと子ども同士の広範な触れ合い・交流が主眼。何よりも子どもの好奇心を醸成することが大事。</p> <p>★事例発表の事業について 現在の活動は、維持・継続し、加えて、最初から活動範囲を限定せず、絵本読みや音楽など、子どもの感性を育てるために浅くても広い活動が重要と思う。</p>
総合評価	A	

委員⑮		<p>★ジャンルについて 少子化の中、親子のふれ合いの場を提供することは公民館事業として大切なことである。 他の親子との交流の場を提供するためにも必要である。</p> <p>★事例発表の事業について 幼児と親子の交流の場を提供するカリキュラムの工夫が伝わってきた。 後期の参加者が増えたことは関係者の努力の結果である。 今後の展望の中で口頭であるが「休みにならないよう配慮する」とあったが、公民館事業全体を考えると天候等不可抗力時の配慮は必要ないとする。</p>
総合評価	A	